



5年間のセミの抜け殻調査から分かりそうなこと

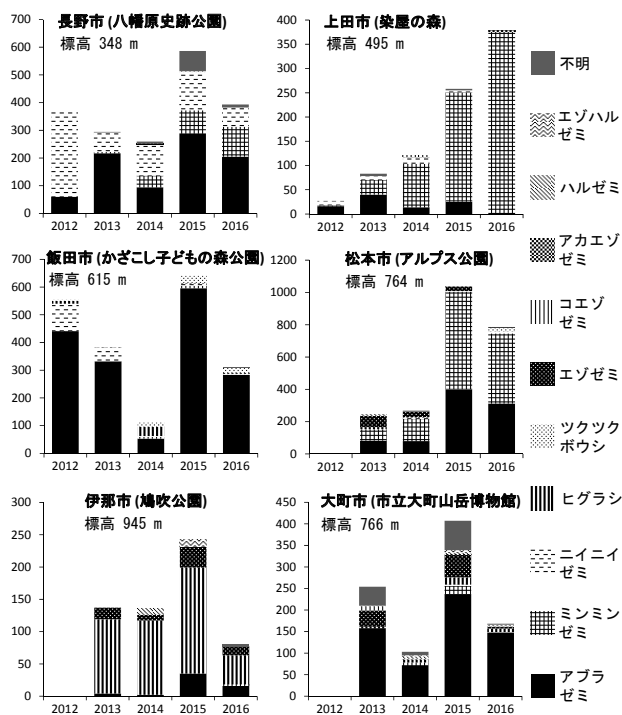
気象庁の1898～2015年の観測データによると、年平均気温は長野市で1.28℃/100年、松本市で1.88℃/100年、飯田市で1.29℃/100年の割合で上昇しています。気温が上昇した要因として、気候変動や都市化の影響などが考えられ、この傾向は今後も続くと考えられます。気温の上昇は、私たちの身近にいるセミにも影響を及ぼすと言われています。たとえば、今よりも気温が上がると、現在のセミの生息場所が、より標高の高い場所や北へと広がるのではないかとされています。このようなことは、気象観測と併せて繁殖の根拠となるセミの抜け殻を継続的に調査することで明らかになると期待されます。

そこで当研究所では、セミの抜け殻を集めて種類毎にその数を集計する調査を、2012年から長野県内の6箇所（長野市、上田市、飯田市、松本市、伊那市、大町市）で、毎年8月に各地のボランティアスタッフの皆様の協力を得て実施してきました。この調査は

市民を対象とした講座の一環として実施しており、参加者の方々に自然環境の変化を実感してもらえるようにと企画しています。2016年は調査が5年目の節目を迎えるので、これまでの調査結果から分かりそうなことを以下にまとめました。

セミの種類として、飯田市（かざこし子どもの森公園）ではアブラゼミ、上田市（染屋の森）ではミンミンゼミ、伊那市（鳩吹公園）ではヒグラシが、それぞれ大多数を占めていました。一方、長野市（八幡原史跡公園）ではアブラゼミとニイニイゼミが、松本市（アルプス公園）ではアブラゼミとミンミンゼミが、それぞれ2大勢力となっていました。大町市（市立大町山岳博物館）はアブラゼミが最も多いものの、他に8種類のセミの抜け殻が見つかり、多様なセミが生息していることが分かりました。また、標高700m以上の松本市、伊那市、大町市ではエゾゼミの抜け殻もある程度見つかりました。

採取されたセミの抜け殻数は年により大きく異なり、2015年はどの地点も非常に多くなりました。この理由は不明ですが、今後も調査を継続していくことで、何らかの周期性や気象条件との関連などが分かるのではないかと期待しています。また、2015年には、飯田市でクマゼミの鳴き声を聞くこともできました。クマゼミの抜け殻を発見することはできませんでしたが、今後の調査でクマゼミの抜け殻が見つければ、暖地性のセミが長野県でも繁殖できるようになっていることを示す重要な根拠になると考えられます。さらに、長野市と上田市では初年度にほとんど見つからなかったミンミンゼミの抜け殻が、年を追うごとに増加していました。松本市でもミンミンゼミは増加していて、これら3地点のミンミンゼミの増加の原因についても、今後、検討したいと考えています。



各会場における2012～2016年の各セミの抜け殻数

(栗林正俊)